

2 プランとSDGsの関係

(1) 持続可能な開発目標 (SDGs)

平成 27 (2015) 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)は、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、すべての国が令和 12 (2030) 年までに取り組む国際社会全体の 17 の目標で構成されています。

本市は、国の公募に対して人口減少や高齢化等の地域課題解決をめざす提案を行い、平成 30 (2018) 年 6 月「SDGs 未来都市」に選定されました。

(2) SDGs達成に向けた教育の推進

教育は、SDGs の目標 4「質の高い教育をみんなに」として位置づけられ、「教育がすべてのSDGs の基礎である」とも言われています。目標の中には、「持続可能な開発のための教育 (ESD) を通して持続可能な開発を促進するために必要な知識等を習得できるようにする」というターゲットが示されています。

ESD を基盤にしつつ、SDGs の視点を踏まえた教育を推進することで、多様な問題が絡み合い、解決が困難な現代の課題の重要性について、子どもが認識し、主体的・協働的に学び、行動するための能力・態度を育みます。

また、本プランにおいては、基本施策ごとに SDGs の目標を掲げています。



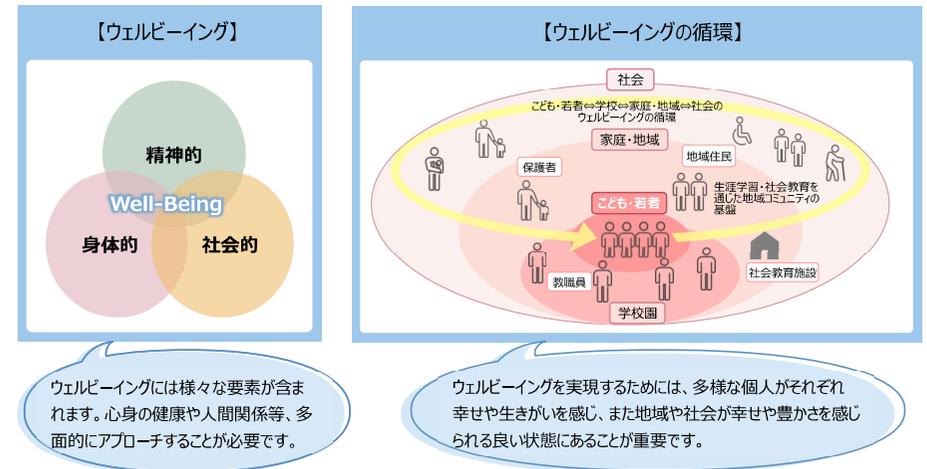
☆

3 基本的視点

すべての基本的方向性、基本施策を貫くものとして、3 つの基本的視点を設定しました。本プランの推進にあたり、3 つの基本的視点を踏まえ、すべての取組を進めます。

(1) ウェルビーイング

- ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあり、将来にわたる持続的な幸福を含む状態を意味します。
- こどもや教職員等のウェルビーイングの向上をめざして、多様な取組を進めます。
- 日本の社会・文化的背景を踏まえ、自己肯定感や自己実現、人とのつながりや社会貢献意識等の要素を調和的・一体的に育む日本社会に根差したウェルビーイングの向上に努めます。



ウェルビーイングには様々な要素が含まれます。心身の健康や人間関係等、多面的にアプローチすることが必要です。

ウェルビーイングを実現するためには、多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じ、また地域や社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることが重要です。

ウェルビーイングの3つのポイント



教職員の健康・安心

教職員が心身ともに健康な状態で、仕事と生活の両方を充実させながらウェルビーイングを確保して働くことが、教職員自身の創造性を高め、教育活動の質をより向上させることができる。



こどもの健やかな成長

すべてのこどもが健やかに成長し、ひとしくその権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態で生活を送ることができる。



地域・社会への広まり

こどもが幸せや生きがいを感じられる学びを、学校・家庭・地域がともにつくることで、こどもをはじめ学校に携わる人々のウェルビーイングを高め、地域、社会へと広げることができる。